大庄屋三木家住宅

稲葉百花
高嶋華鼓
玉越千咲

橋本奈美
三木淳名
三村きみか

林田 中学校
3年

不思議発見!!

●大庄屋 三木家住宅●

- 三木家は江戸時代，大庄屋をつとめた家です。三木家の祖先は四国の河野水軍で，その祖先が播磨にやってきて，英賀城の城主になりました。
- 天正8年(1580年) 羽柴秀吉がその英賀城を落とした時の最後の城主が三木通秋で，その弟2人のうち定通が林田に逃れてきて三木家の基をつくりました。
- 三木家は初め，窪山城があった所に家をたてましたが，元和3年(1617年)，建部政長が林田藩主として窪山城に陣屋を構えたため，麓に家を移し，3代目定久の時に今の場所へ移ったといわれています。
- その時，三木家は建部氏から藩の税の取りまとめ役の大庄屋を命じられ，江戸時代が終わるまで大庄屋をつとめました。

奥座敷

・奥の間（茶室）

奥の間（茶室）には様々な工夫がされています。知っている方も多い，入口が極端に低く作られているということも一つです。
入口が低くつくられているのは，茶室によくあるつくりです。

茶室の入り口

茶室は「お茶」をする場なので，刀を持って入る必要はありません。

なので，もし刀を持ったまま茶室に入ろうとすると刀が引っかかり，入ることができない仕組みになっています。
このような入り口を「にじり口」といいます。

もう一つの工夫は，壁です。今は修復されていますが，壁の端が薄く作られており，敵が押し入ってきたときにその壁を壊して逃げられるようになっています。

もしもの危険のための備えがされていたとの事です。

茶室の壁

・衣紋掛け　床下収納

着物などをかけるために作られた衣紋掛けの下に，床下収納があります。

床下収納は，腐りやすいもの，匂いのきついものなどを主に入れていましたが，それ以外の用途もあったと考えられています。実は，これも今は修復されているのですが昔は収納の左側と床下がつながっており，敵が襲撃してきた時のための「抜け道」として使用されていました。

敵に見つかりにくく，そして追いかけられにくいという工夫がされていました。

床下収納

三畳間　物置

・三畳間　物置

奥座敷のとなりに，三畳間と物置が作られています。三木家はもともと物置が少ないという点もありますが，他にも重要な役割がありました。

三木家の奥座敷は三木家の人の間，三畳間を挟み反対側は表座敷，お客様となっています。

お客様と自分たちの間をはっきり分けるというのと，表座敷で聞かれてはいけない話をしている時に，裏座敷に声が届かないように間をあけているということがあります。

～裏台所～

裏台所は主に三木家の使用人の人たちが料理をしたりする場所で、三木家の主人や家族の居住空間である奥座敷のうちの1つです。

下の写真の障子は横にスライドできるようになっていて、光を取り込んだり、光の調節ができるようになっています。

・神棚・

神棚の障子は、基本的に開けられていますが、肉類などのごちそうを食べるとき、神様に気兼ねして、目隠しをするように閉められました。

裏台所の床は板張りになっていて、少し段差があります。これは、畳一枚分の大きさと高さが同じで、この段差に合わせて畳が敷き詰められ、座敷が1つできる仕組みになっています。段差の部分は料理を置く場所として使われました。

北湯殿　"蒸し風呂"

このような形で残っているのは、日本で
奈良の中家とこの三木家住宅だけです。

これは、唐破風
といって、三木家の
家格を表わしています。

これは、桃です。
桃は、邪気を払う果物と
昔から言われています。
なので、ここに彫られています。

この家系図を見ると
わかるように、2代目、
4代目、5代目、6代目の
名前の一字に『貫』と
いう字があるので、ここに彫られたと
言われています。

底の奥隅にある銅板を熱く
温めて水をかけると蒸気が
発生し、サウナができるという
しくみになっています。

中には小学生が8人程度入れるそうです。三木家を見学に来た小学生を案内する時、実際に入ったそうです。

ここで水を浴びて右下の穴から水が流れ出て、下の写真の池に続いていました。

これは、何かが起きた時に助けを呼んだり、すぐに逃げるための扉です。

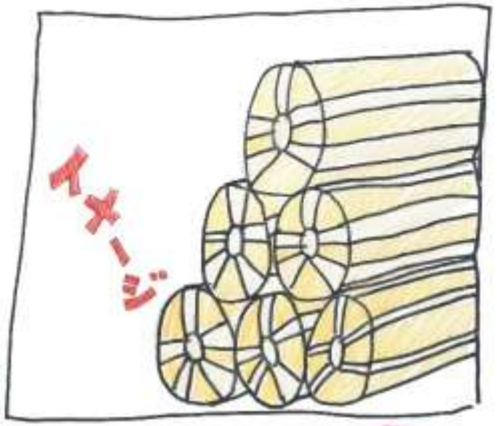
ここには昔、水がたまっていました。今、水はありませんが、火事の時の防火用水路でした。また、使用後の水なども流れていたそうです。

三木家にある3つの蔵

3つの蔵の中で
1番大きい蔵！
主屋と少し離れた
場所にある。

米蔵

・この蔵には、三木家の人たちが食べるお米をおいていて、奥へ行くほど新しいお米になるようにしてありました。
・米俵1つ60kgで、それが3部屋に約1500俵入ります。
・米蔵は3部屋あるので、1部屋に約500俵入ります。



収納の知恵

・片方を階段状にして、上へ上へと積み上げやすいようになっている。

ビックリ!

・米蔵の壁には…、古い紙やわらがねり込んである。

米蔵だけ!!

◯内蔵◯

・三木家は役所のような仕事をしていました。するとたいせつな書類がたくさんあります。それらをこの蔵にしまっていました。

・今は別の場所に保管してあります。

2階もある

◯新蔵◯

・この蔵には、四季の物がしまってありました。

例えば、

夏なら冬ものなど

当面使用しないもの。

この2つの蔵は主屋とつながっている。

◯3つの蔵の共通点◯

窓には蛇鼠の侵入を防ぐために、金網がはってある。

天井をみると、大きな曲がった木がある。これはわざと曲がった木を使用している。

なぜなら…
曲がった木は耐久性が良いから

文化遺産にするためには、あるていど、もともとある部分を残さないといけないので、床をみると、ところどころ木の色がちがったり、柱も上下の色がちがったりしている。

三木家住宅・南北の長屋
～柱の傷跡に刻まれた歴史～

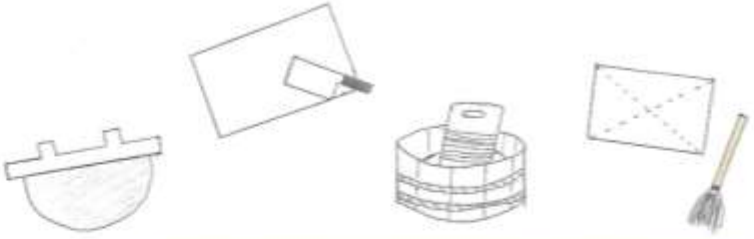
これは東街道沿いに建つ三木家長屋の最も重要な栗の木の柱です。元々は白木の角材でしたが、年代を重ねて柱の表面はつるつると滑らかに、濃い茶色に変色しています。腰の高さの位置には、大きな斧の切込み跡があります。これは江戸時代の『天明の飢饉』による百姓一揆が、ここ林田藩にも広がり、その悲しい騒動の生々しい傷跡です。東側の壁と比べると西側の柱が少なく、この柱1本を倒すと長屋全体が崩れて、主家の方まで被害が生じてしまう危険がある事を農民たちは知っていたので、この柱が狙われました。

騒動を治める為に、当時の三木家当主は林田藩主に相談し、千両(現代の予想価格1億円)を賜り、そのお金分の米を農民に渡しました。そうする事で被害がそれ以上広がる事もなく騒動が治まったそうです。

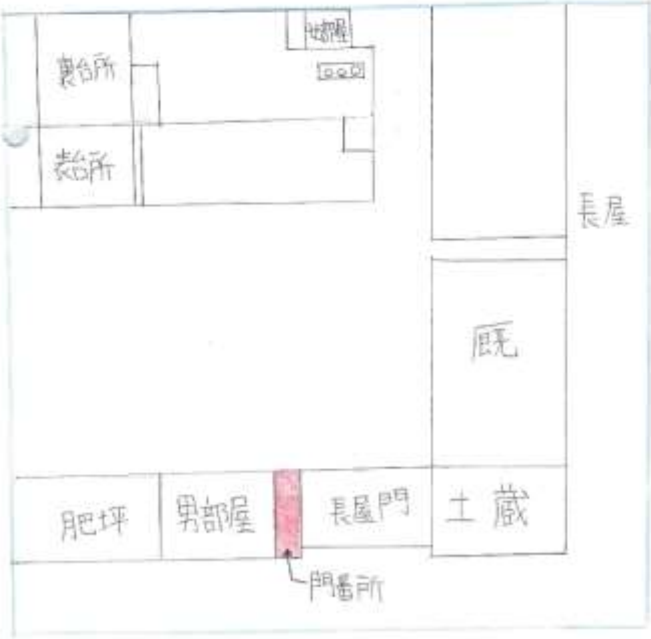
○ 主屋、長屋の建物は解体、復元工事が行われ、平成20年(2008年)に完成しました。当時の面影を残しつつ内部では耐震補強が施されています。

表からは見えないよう配慮して三木家住宅の雰囲気をそのまま現代に伝えています。しっとりとした白塗の壁の中に400年間この建物を支えてきた柱がひっそりと、しかし厳かに今もなお立っています。

およしさん



"およじ"さんとは、三木家で女中として働いていた方です。三木家には門番所があり、そこでは男の人が交代で見張りをしていました。門番の仕事はあまりなかったので、よく女中さんをのぞいたり話をしたり、戸に落書きをしました。その落書きの跡が門番所の戸に見つかっています。このことから、"およじ"さんは女中の中でも人気のあった人だということが分かります。



拡大

庭園

池泉回遊式庭園とは…

園路を歩きながら観賞することが主体の庭園のことです。景観の変化が重要なため、地割りが複雑化したものが多いです。裏表の少ない歩む道が庭景となる様式だそうです。

この庭園は江戸時代に作られた池泉回遊式の庭園です。家屋の保存修理に併せて、平成21(2009)年から1年かけて再整備しました。池の水は近くの林田川から引いており、その周りには四季折々の花や植物がおよそ60種類植えてあります。また、石や高木はもとからあったもののみで構成されています。

作られた当時は表座敷の裏側に御成座敷がありました。この部屋からは庭園を一望でき、池と土塀越しに背後の山並みを楽しむことができます。ここでお殿様はゆっくりとくつろいでいたそうです。

～歴史ボランティアガイドジュニアについて～

(1)平成10年12月の長屋門解体修理から始まり、平成20年度に主屋ほか県指定の建物6棟すべての工事を終え、平成21年度の庭園整備ですべての保存修理工事が完成した。平成22年7月オープニングセレモニーを盛大に開催し、一般公開が始まった。オープン当初は林田観光ボランティアガイドの方々によるガイドだけであった。

(2)平成23年度、林田中学校1年生の総合的な学習として、林田大庄屋旧三木家住宅の調べ学習及び見学を機に、「NPO法人新風林田」「林田町観光ボランティアガイド」の協力を得て、中学生による、歴史ボランティアの取り組みが始まった。

(3)平成23年夏休みに、中学生の歴史ボランティアガイドを募集し、中学生1年6名の生徒が参加することになった。「NPO法人新風林田」「林田町観光ボランティアガイド」を姫路市教育委員会文化財課の協力を得て、中学生の勉強会が始まった。中学生は前向きに勉強会に参加すると同時に、自分たちの町に素晴らしい文化財があることに気づき、「私たちの林田」について考え始めた。

(4) 平成23年11月23日、「はやしだ町歩き」のイベントに「歴史ボランティアガイドジュニア」として初めて一般観光客にガイドをすることになった。個々の生徒は、それぞれの持ち味を発揮し、個性あふれるガイドを披露し、好評を得た。

(5) その反面、本来の目的とは違った方向に進んでいく状況に不安を覚えないわけではない。華やかさに惑わされることなく、地道な活動、自分たちの郷土に誇りを持つということ、「中学生のガイドを聞いてよかった。」と思ってもらう活動を続けていくことをモットーにこの活動が林田中学校に根づくことを目指すとともに、現在、ボランティアガイドジュニアの活動に参加している生徒が大学生になった時、大人になった時に、次は「観光ボランティアガイド」として活動してくれることを願う。月1回の活動後はその様子を新聞にまとめ地域の掲示板や店舗などに掲示してもらい地域ぐるみで活動を支え、見守ってもらいながら活動を続けている。

(6) 平成24年7月に新たに1年生を募集し、7名が活動に参加し、11月25日「はやしだ町あるき」にデビューを果たした。